



## 東日本大震災被災地での淡路病院薬剤師の活動

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災によって被災された方々の支援のため、兵庫県立 10 病院の職員を中心とした救護班を編成し、宮城県石巻市において H23 年 3 月 19 日から 6 ヶ月間の間継続して救護活動を行いました。兵庫県立淡路病院からは医師、薬剤師、看護師等からなる救護班を 4 期にわたり派遣し、薬剤師が救護班チームの一員として調剤、服薬指導、医薬品の管理、衛生管理、情報管理等の活動を行いました。

	期間	感想等	写真
1 期	平成 23 年 3 月 23 日 から 3 月 27 日	十分な医薬品の供給がなく、限られた医薬品で薬物治療を行わなければならないので、医師に患者さんに使用する医薬品の処方提案などを行いながら、救護所で調剤しました。被災者の生活環境は厳しく大変なものでしたが、短い間にも、自衛隊によるシャワーの提供や各ボランティアによる炊き出し等があり、改善に向かう兆しを感じました。	 <p>2011/03/26 13:54</p> <p>1 F 保健室の救護所での調剤の様子</p>
2 期	平成 23 年 4 月 27 日 から 5 月 1 日	震災から一ヵ月半経ち、小学校も再開され、復興の兆しが見られました。患者数は 1 日 40 名程度に減少しており、慢性疾患の再診患者や粉塵による咳・鼻水・結膜炎や精神的ケアの必要な患者に移行していました。周りの医療施設も再開され始め、地元の調剤薬局への処方せん発行準備などの変換期でした。	 <p>家庭科室の一角に設けられた調剤スペース</p>

<p>3 期</p>	<p>平成 23 年 5 月 21 日 から 5 月 25 日</p>	<p>震災から 2 ヶ月が経過し、救護班による医療から、地域医療への返還の過渡期でした。できる限り地域の医院や薬局を紹介していくようにしましたが、避難所にいる人々にとって、救護班が身近にいることは精神的にも大きな役割を果たしていたと思います。避難所周辺はまだまだ復興というにはほど遠い現状でしたが、人々の心は復興に向かっていて感じました。</p>	 <p>様々な情報をまとめた黒板</p>
<p>4 期</p>	<p>平成 23 年 6 月 22 日 から 6 月 26 日</p>	<p>震災から 3 ヶ月以上が経過しており、近隣の診療所や薬局、商店等はほぼ再開していました。そのため救護所に訪れる患者は少なくなり、地域が自立し始めていることを感じました。今後は被災された方々の精神的なケアが重要になると思われ、そのことを十分配慮して薬剤師として活動していきたいと思いました。</p>	 <p>石巻日本赤十字病院でのミーティング風景</p>